

2019年2月26日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 5-1-28
www.lilly.co.jp

EL19-03

日本イーライリリー、Pepper を活用した初の事例となる 治験の啓発に関するパイロット運用の結果を発表 ～患者さんの認知を向上し治験参加者の募集を促進～

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン、以下、日本イーライリリー)は、ソフトバンクロボティクス株式会社の人型ロボット「Pepper」を用いて治験の啓発及び治験参加者の募集を促進するパイロット運用を行い、本日、結果を発表いたしました。全3医療機関を対象に行われた実験の結果、Pepper の設置をきっかけに患者さんと医療従事者の間で治験に関する会話が生まれ、3医療機関全てで患者さんからの問い合わせが入るなど、治験に対する認知向上と参加者募集の促進につながりました。



ソフトバンクロボティクスの Pepper を活用したリリーによる独自調査を実施しました。

近年では、治験の対象となる患者さんの条件が複雑化したり、患者数が少ない疾患を対象にした試験が増加したりすることで、新薬開発に必要な治験への患者さんの募集が難しくなる傾向にあります。また現在の医療環境では、患者さんにとって治験に関する情報を得にくく、治験を知る機会が少ないと考えられます。本パイロット運用では、3医療機関で約1ヵ月から3ヵ月間にわたり、Pepper が待合室に設置され、「治験とは何か」、「クリニックで実施中の治験について」を患者さんに説明し、Pepper の説明を聞いて興味を持った患者さんは、医師や治験コーディネーターから治験の詳細説明を受けることができるようにしました。本パイロット運用では、通常掲示している院内の治験啓発ポスターと Pepper のコンテンツを同一にして行われ、ポスターと Pepper という媒体の違いによる治験啓発の効果の差や Pepper の設置による変化について、医療機関へのアンケート調査により検証しました。

パイロット運用の結果、Pepper の設置により、3医療機関全てで患者さんから問い合わせがあり、同意取得、登録につながった患者さんもいらっしゃいました。また、医療機関からは「患者さんとの会話が弾んだ」「治験のイメージが良くなった」「治験に対する認知・イメージが高まった」という回答が寄せられ、Pepper が治験の認知向上に貢献したことが示唆されました。

日本イーライリリー臨床開発本部部長の藤本賢二郎は「製薬企業として初めて Pepper を活用した治験啓発活動を行いました。患者さんの治験に対する関心を高めることができ、治験への同意を取得できたことを高く評価しています。Pepper 自体が患者さんの関心をひきつけると共に、治験対象となる患者さんに直接呼びかけることができるため、治験の参加者募集に効果的だと考えています。今後も、リリーでは、新しいテクノロジーを活用し、患者さんや日本の医療現場へのさらなる貢献に努めてまいります」と述べました。

本パイロット運用をもとに、今後開始する治験において、Pepper の活用を院内治験啓発の選択肢の一つできるように社内プロセスの整備を進め、より患者さんのニーズに沿った治験紹介を目指していきます。

【パイロット運用 概要】

1. 実施概要

- 期間:2018年9月上旬～12月上旬
- 対象施設: 東京都、大阪府などの3医療機関

2. 結果

- 問い合わせへの影響
Pepperを設置した3医療機関全てで、治験に関する問い合わせにつながりました。また治験参加の同意取得、登録につながった医療機関もありました。
- 医療従事者へのアンケート結果
Pepperの設置により、治験の啓発や患者さんと医師、治験コーディネーター間の関係性を向上する可能性が示唆されました。
 - ・一部、患者さんから治験に関する問い合わせ数が増加したとの回答が得られました。
 - ・院内の治験の認知向上につながったという回答もあり、特に、患者さんから問い合わせを受ける治験コーディネーターや事務・看護師からも好意的なコメントを得ました。
 - ・Pepper設置による治験の実施しやすさの変化に関して、「患者さんとの会話がはずんだ」「治験のイメージが良くなった」、「病院の雰囲気が良くなった」という回答が得られました。
 - ・患者さんからは「Pepperをきっかけに治験を知った」、「Pepperを見て治験に興味をもったので問い合わせをした」、「先生や看護師さんからの治験説明の前にPepperから説明を受けてよかった」という回答がありました。

日本イーライリリーの治験に関する活動について

日本イーライリリーでは、これまでも患者さんが治験に参加しやすくなるよう、様々な取組みを展開してきました。2016年からは、患者さんや治験コーディネーターから治験の手順や資材について意見をもらい、患者さんが参加しやすいように変える「CoLAB」というプロジェクトを導入し、これまで約10の疾患を対象とした治験で実施しています。具体的には、患者さんの来院スケジュールに配慮して既定の来院日の許容期間を広げることで来院日の調整をしやすくする、プラセボの設定を無くす、対象疾患に対して日本で広く使われている薬剤を併用可能にするといった変更を行いました。

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.lilly.co.jp>